救助訓練の説明

2025.2.16

自主防災会事務局 佐藤

今回は、2班を【モデル班】として、消防署員指導のもと救助訓練を行ないます。そして、訓練後に《参加班員》《見学の自主防委員・他班長》より感想・意見等を出してもらい、今後の取り組みに生かしていきたいと思ひます。

1. 参加者

2班自治会員（世帯代表者1名／14名）、班長（12名）
消防署員（1名）、自主防災会運営委員（6名） / 計33名

2. 時間

安否確認訓練終了後に行ないます
開始時間【11:05頃予定】～ 終了時間【11:30頃予定】

3. 場所

須藤責邸前に集合。【11:00集合】

4. 訓練内容

負傷者 《須藤重子さん》 脚負傷の設定

救助者 《須藤責さん》《須藤省三さん》《原悠希さん》《当日決定2～3名》
/ 計5～6名

・須藤省三さんがお隣さんの安否確認で負傷者を発見、御近所に声掛けをした設定で行ないます。2種類の担架を使用した救助訓練を行ないます。〔家の中から門までは布担架、門から避難所までは通常の折り畳み式担架を使用します。〕また、家にあるもの(毛布)を担架代わりにする訓練もあります。

★布担架は柔軟性があり、座った状態など負傷者が望む一番楽な姿勢のまま搬送が可能であり、急な階段や狭所など場所を問わず、使用することができます。

☆消防署員の方から指導を仰ぎながら訓練を行ないます。

5. 搬送経路

別紙参照願ひます。

9:55～10:10

《班長がカードをチェック》

6. 2班タイムスケジュール(班長以外)

9:30 地震発生 → 9:35 安否確認カード掲示 → 10:50 カード取外し → 11:00 須藤責邸集合

簡易担架の使い方は？

1 できるだけ4人で搬送する。

搬送される人（患者や傷病者）の足の方を進行方向とする。

3 搬送する際には、搬送される人（患者や傷病者）の担架上での体の位置を、足を低く、頭を高くする。

4 降ろすときは、搬送される人（患者や傷病者）の足のほうからゆっくり降ろす。

常に水平になるように

長い距離を運ぶ時は、状況に応じて交代して持つように

担架搬送の注意点

1 地面から持ち上げる時は、掛け声をかけてゆっくりと持ち上げる。

2 平地では足側を進行方向にする。

3 階段の上りは頭側が進行方向にする。

4 階段の下りは足側を進行方向にする。